講　演

創価大学平和問題研究所「平和講座」

国際熱帯木材機関（ITTO）
── 持続可能な開発のための取り組み

国際熱帯木材機関（ITTO）事務局長　シャーム・サックル

創価大学の学生の皆さま、鈴木学長、本日はこちらにお招きいただき非常に温かい歓迎をありがとうございます。創価大学が素晴らしい教育を若い学生の皆さんに提供し、教育のさらなる促進を図られていることに敬意を表します。

創価大学平和問題研究所の玉井所長より先ほど簡単に私の紹介とITTO（国際熱帯木材機関）の活動について紹介をしていただきました。名前に熱帯木材とありますのは熱帯木材の貿易の責任を担っている組織だからですが、実際は、持続可能な形で森林、熱帯林を管理していくことに主眼を置いています。創価というのは、価値を創造するという意味だと伺っています。これはITTOの哲学でもございます。価値を創出し付加するということ、すなわち熱帯林という貴重な資源に対して価値を創造していくということです。

それから、創価大学の創立者である池田大作先生に対して感謝を申し上げます。先生は、ITTOの重要な取り組みについて、2022年の第47回「SGIの日」記念提言の中で言及してくださいました。ITTOは創価学会とも連携をとっており、また創価大学出身の国会議員である中川康洋氏の支援で、日本の様々な機関とつながることができています。

私から、この講演を通して、ITTOは何をしているのかという概要をお伝えしたいと思います。そして、人間と森林と気候と、われわれの世界におけるつながりについて理解していただけるかと思います。

予測不可能な世界的危機の時代における ITTO のミッション

若い皆さんがご存じのとおり、私たちは非常に予測不可能な時代に生きています。新型コロナウイルスによって世界が影響を受けただけでなく、エボラ熱などいろいろな感染症があります。さらにロシアとウクライナの武力紛争だけではなく、シリア、アフガニスタン、その他の地域においても紛争が続いています。世界が直面している危機によって、サプライチェーンの混乱が起き、インフレは今までにないほどに高まっています。私たちは異常気象にも直面しており、これは気候変動が原因だと考える人もいますし、人為的なものであると考える人もいますが、いずれにしても、気候変動をと生態系の荒廃がもたらされています。これらはすべてこの数年の出来事であり、持続可能な開発をより迅速に追求する必要性が認識されるようになっています。

ITTO のミッションは、この熱帯林の持続可能な経営と管理、保全を促進することです。そして、合法的、持続的に伐採された熱帯木材の国際貿易の拡大および多様化を進めることです。ITTO は、熱帯雨林の資源に主眼をおいた唯一の政府間組織です。横浜を本拠地とし、日本政府と横浜市から手厚く寛大な支援を受け、設立以来35年間ずっと活動を続けてきました。加盟国は、世界の熱帯雨林の8割をカバーし、熱帯雨林木材の貿易の9割を扱っています。

持続可能な開発の触媒となる ITTO の活動

ITTO は、持続可能な開発の触媒となる活動をしています。私たちは熱帯木材の貿易拡大を強化するとともに、17 の持続可能な開発目標（SDGs）達成を支援しています。特に SDGs の目標1貧困をなくそう、目標12 の作る責任、使う責任、目標13 の気候変動に具体的な対策を、目標15 の陸の豊かさを守ろうという活動を支援しています。国際的な協力のもとに目標17 の達成に向けても積極的に活動しており、その他の SDGs の目標である教育、ジェンダー・エンパワーメント、そして健康についても注力しています。ITTO が行う持続可能な熱帯林への取り組み自身が、SDGs の17 の目標全てに資するものだと

考えています。

サプライチェーンと持続可能な開発

世界の多くのセクターが、サプライチェーンと持続可能な開発との連携の重要性を認識しています。というのも、持続可能なサプライチェーンというのは、グローバル・コミュニティに対して製品やサービスが生活の質、教育、食、健康、そして安全保障を高めることを確実にするものだからです。合法的かつ持続可能なサプライチェーンは、特に森林に関わる環境および社会に対するネガティブな影響を低減します。また、公害やその他労働環境、ジェンダー平等やバイオセキュリティー、周縁化された人々、生物多様性や土地の使用のニーズといった問題にも対応するものです。そして、合法的で持続可能な熱帯雨林の供給とサプライチェーンによって、効率性と最大の効果、透明性が高まります。それは森林から加工工場、船舶、世界中への輸送というサプライチェーン全体を通して確保されるもので、幅広い視角と多様なステークホルダーの協力を必要とします。ITTO は、これらの製品やサービスが世界中に公正な方法で流通するための合法的で持続可能なサプライチェーンに関する独自のプログラムを持っています。

森林と市場を結ぶ ITTO のプロジェクト①：トーゴにおける森林再生プロジェクト

私たちは、先ほども申し上げましたように、森林とマーケットの間にある様々な点をつなげて、持続可能な開発を推進しています。ITTO は創立以来、現地で1200 のプロジェクトを推進してきました。この講演の中で、そのうちいくつかの事例を紹介します。

すでに行われた ITTO のプロジェクトは、国際的なまたは国家的なパートナーと協力して実施してきましたが、これについては、ITTO のウェブサイト（www.itto.int）で詳細を見ることができます。

創価学会にも助成いただいたプロジェクトの一つは、西アフリカの小さな熱帯の国トーゴで100名の女性がジェンダーポジティブな形で参加して行われました。またこのプロジェクトには二つの県が関わっていました。

ここで意図されたのは、荒廃した森林20ヘクタール分を回復させることですが、これまで置きざりにされてきたこの地域に住む女性のエンパワーメントによって、気候変動の問題の解決や植林につなげようとしました。女性は生産のスキルを獲得し、経済的な自立を果たすことによって、家族のニーズ、そしてコミュニティーのニーズを満たすことができます。さらに、植林活動を通じて食糧生産が可能になりました。各家庭は、それぞれの食糧のニーズを満たすことができ、その余剰分を売って追加の収益を得ることができました。そして、女性たちだけでなくその子どもや夫、親や祖父母の生活を向上させることができ、この県、地域、そして国レベルでのプレゼンスが高まりました。資源を同時に効果的に管理する必要性から、社会的な連帯も強まりました。

そして、創価学会は非常に寛大なことに、このプロジェクトへの支援を引き続き継続してくださると聞いています。

森林と市場を結ぶ ITTO のプロジェクト②：インドネシアの自生林利用プロジェクト

次のプロジェクトは、持続可能な自生林を使用し樹木の安全保障を確保して、雇用の機会を提供するものです。これが所得と食の安全保障にもつながります。世界それぞれの地域で特定の樹木のニーズがあり、それが長年にわたる過剰な樹木の伐採につながっています。そこで、このプロジェクトは、こうした過去のあやまちを是正しようとしています。もちろんこれは、全て将来の世代のために、最大の効果をもつものを導入するものです。栽培技術はマニュアル化され、18ヘクタールの実験的な区画を開発し、地元の能力を向上させました。そして、木を育てることで小さな農家に直接的な利益をもたらすのと同時に雇用を創出し、原材料を供給することによって、地元の産業を支えます。それが環境の改善にも役立つのです。植林が全ての問題を解決するわけではあり

ませんが、植樹をすることによって脱炭素を提供し、世界が排出している二酸化炭素を吸収し、木は光合成を行い、私たちが生きるための酸素を作ることができます。このプロジェクトは、ITTO の熱帯林の保全と持続可能な使用が効果的に機能している良い例です。これは、人、環境、そして健康にも良いポジティブな結果をもたらしています。

熱帯林に関する国際社会の取り組みと SDGs

持続可能な開発とは何かということは、明確に分かっています。原則的には、これは人のニーズと人間の開発目標を満たすことです。と同時に、人間が必要とする資源と世界が依存している生態系のサービスを提供することで、自然の生態系の能力を維持するものです。望ましい結果としては、生活環境と資源が人のニーズを満たし、自然システムの完全性と安定性を損なわない、持続可能な形で使われることです。これが初めて制度化されたのは、1992年のリオデジャネイロサミットであり、以来、進化を続けています。

森林の貢献に着目した最近の国際的なコミットメントの例をあげていきましょう。G7 の気候エネルギー環境大臣会合が、今年の5月にベルリンで開催されました。そして、2023年には日本政府が主催国となり開催されます。ITTO は、G7 のプロセスを支援するイベントによって、FAO と日本の農林水産省に協力しています。

森林と土地利用に関するグラスゴー首脳宣言は、2021年11月、イギリス・グラスゴーで国連の気候変動に関する UNFCCC に関連する COP26（国連気候変動枠組条約第26回締約国会議）の一部として発表されました。2022年には COP27 がエジプトで開催されましたが、ITTO もそこでは非常に活発に活動しました。

国連のハイレベルでの持続可能な開発に関する政治的フォーラムもあります。これは、世界の SDGs の達成度や進捗状況を評価するものです。現状のレポートやイベントから判断しますと、まだ望ましいレベルに達していないため、2030年へ向けた SDGs の進歩を加速しなくてはなりません。

そして、気候変動の議論において今の時点で中心となるのが、パリ協定です。生物多様性条約については、カナダが主催国となり来週（2022年12月）からCOP15が始まります。ITTOも、カナダのモントリオールでの2週間の交渉に参加します。また地球環境機関も森林をプロジェクトの中心に据え、全ての環境問題に関して、条約を通して資金を提供しています。

そして、国連の持続可能な開発のための2030アジェンダとSDGsがあります。SDGsには17の目標があり、わずか8年先の2030年がデッドラインです。実はこれは7年前の2015年、歴史的な国連の会議で決定されました。この目標のデッドラインまで、まだあと8年残っています。地球を守りながら繁栄を促進する行動が求められています。そのためには、貧困を撲滅することが、絶対的な鍵となります。経済成長を構築し、社会的ニーズに応え、気候変動をとめて環境を守る戦略と同時進行で、並行して行わなければなりません。これは、いくつもの柱を持ったアプローチといえるでしょう。

人間の幸福における持続可能な熱帯林産業の重要性

熱帯林は大変重要であり、人の幸福には欠かせません。森林は地球の陸上の31パーセントを占めており、陸上で最も生産性の高く最も多様性のある生態系の一つです。推定では、世界の16億の人々が生計を立てるために森林に依存しています。2030年までには、世界の人口は90億人を超えるでしょう。熱帯林は全世界の森林面積の45パーセント、およそ半分を占めています。そして、世界で極度の貧困の状況にある人々のうち、70パーセント以上が熱帯地方で暮らしています。だからこそ、持続可能な熱帯林の管理をサポートすることが不可欠なのです。そうすることによって、貧困を撲滅し、持続可能な森林業による利益の確保が可能となり、SDGsを2030年に達成することに貢献します。

持続可能な熱帯林産業の利点

持続可能な熱帯林産業の利点は、たくさんあります。熱帯木材製品とそれ以

外の木材製品は、持続可能な伐採、加工、貿易によって世界中の家庭や消費者に提供されます。そして、地元や国の経済、地域や世界経済にも貢献し、熱帯林に価値を付与します。これはもっと経済的に実行しやすい土地の利用へ森林を転換することを減少させるうえで、重要な鍵となります。

森林の一番の競争相手は農業であり、都市化、インフラ、鉱山などの他のセクターです。持続可能な管理をすれば、熱帯林は健全で、生産的で、再生可能な生態系です。そして、これまで述べてきたように、重要な生態系のサービスを提供します。

パンデミックや多様な脅威の森林への影響

現在、パンデミックへの対応が急務になっていますが、このことが世界的に混乱があるときに、セーフティーネットとして人間の基本的ニーズを満たすという森林の価値を浮き彫りにしました。しかし、森林への脅威は続いています。これは特に気候変動のためです。ITTO のような組織が何をしようと、あるいは国連の森林に関するフォーラムが何をしようと、気候変動の議論で何を議論しようと、生物多様性の条約が何をしようと、警戒すべきスピードで、森林伐採や劣化は続いています。それでもわれわれは緊密に FAO とも協力をし、活動しています。世界は、2015年から2020年の間に毎年推定で1000万ヘクタールの森林を失いつつあります。さらに現在、パンデミックや世界的な紛争が大きな脅威となり、森林が農業使用に転換されています。なぜなら、食の安全保障が、パンデミックと世界的な紛争の結果として、直接のダメージを受けているからです。

森林破壊の主要な要因は、森林の保護と競合しています。依然として非合法的な伐採が一部の地域で行われていますが、この問題を解決するには、地元の政治的意志が必要です。そしてもし貧困を撲滅することができれば、このような不法行為をなくすことができるでしょう。先進国や先進的になりつつあるマレーシア、また日本のような国に住み、創価大学で勉強しているような留学生にとっては想像し難いですが、世界にはまだまだ貧しい地域があります。その

ような地域は、料理、暖房、その他の目的で、森林に依存しています。日本には電気があって、スイッチを押せばすぐに電気をつけることができます。スイッチをひねればガスで料理をすることもできます。しかし、こういった地域では、そのような便利なものはなく、水をくむだけでも、何キロも歩かなくてはいけません。あるいは、木材やたきぎを得るにも、何キロも歩きます。そして、電気のこぎりもないので、自分の力で切らなくてはいけませんし、私たちの衛生的なキッチンとは異なる屋外で料理をしなくてはいけないというように、かなり大きな違いがあります。グローバルなコミュニティーというのは、非常に多様であることが特徴です。気候変動と生物多様性の損失が加速することによる影響は、私たち全員が直面しているもう一つの脅威のはずです。

森林資源の適切な管理と使用の必要性

さらにもう一点、熱帯雨林についての誤解があります。熱帯雨林は非常に重要であり触れてはいけないもので、完全に保全されるべきだと考える人がいます。ITTO と私の個人的な見解として、森林をそのままにして、国際的な貢献という価値が失われると、森林はそのまま失われていきます。実際にそれによって日々森林が失われています。というのも、他の土地の利用、例えば農業生産や都市化、あるいは工業地帯のような形で土地を利用するほうが、現状の森林が生み出すものよりもずっと収益をもたらすからです。

そのため、ITTO は熱帯林が国際投資を必要としていること、そして、熱帯林から人類に資するような形で価値を創出することが必要だと訴えています。熱帯木材のシェアは、このような触れてはいけないというネガティブな認識やイメージによってしばしば影響を受けています。私はこの分野で30年ほど森林産業の専門家と仕事をしてきましたけれども、放置された森林は、そのまま死滅してしまいます。特に熱帯雨林はそうです。熱帯林が成長するためには、光が必要です。つまり、選択的に伐採する必要があるということです。そうすることによって、新しい苗を育て使用するのが、持続可能なやり方なのです。

森林資源を使用することは、自然に基づいた解決法になります。環境にやさ

しくない素材、あるいは環境に有害なコンクリートやアルミ、鉄鋼、セメント、その他の資材に比べて再生可能な資源です。

こうした資材を組み合わせることは、問題ありません。例えばこのディスカバリー・ホールですが、木材のパネルが美しく、床や座席も木材で作られています。これをグローバルなコンセプトにも変換する必要があります。多くの社会がこのように様々な建築材などを使っていますが、さらにできることがあると思います。循環型経済は、木材を使用することによって実現し、また雇用も創出され、収益も生みます。それが、森林資源を将来にわたって、特に将来世代のために持続可能に維持していくために、必要なことです。消費者市場は、熱帯木材が生み出すことができる大きな利点を見落としているのです。

持続可能な熱帯林とは何か

また、持続可能な熱帯林の管理は、将来の SDGs を達成する上で鍵となります。ITTO の定義では、熱帯林の持続可能な管理とは、森林固有の価値と将来の生産性を不当に低下させることなく、また物理的、社会的環境に不当な影響を与えることなく、望ましい木材製品とサービスの継続的な流通を生み出すことに関して、明確に規定した一つ以上の目的を達成するための森林管理のプロセスです。

人類のニーズと環境サービスを継続的に満たすこと、そして、森林の土壌、水、炭素貯蔵量の保全を確保することが必要です。炭素の貯蔵は樹木によって維持されており、樹木がなければ水もなく、土がなければ樹木もありません。それぞれの要素がつながっており、それらは全て自然の要素なのです。

また、生物多様性の保全は、動植物の健康を意味しています。森林の回復力と再生能力を維持し、炭素の貯蔵、食糧安全保障、森林に依存するコミュニティーの文化や生計のニーズを支援することに繋がります。そして、森林管理における責任と森林利用から生じる利益を、公平に配分することができるようにします。

今後の課題①：森林への持続可能で戦略的な投資

今後の課題として、熱帯林には、持続可能で戦略的かつ迅速な投資が必要です。それによって、植林と保全、森林管理、森林産業、循環型バイオ経済への持続可能な木材貿易に繋がる変革が可能になるからです。

日本が積極的にバイオ経済を推進してきたことは、大変素晴らしいことです。また日本は、ブルーカーボン戦略も導入してきました。ITTO が全面的に支援している熱帯木材産業も消費者市場も、持続可能な生産と消費に関する SDGs を促進するための革新的な公共投資、民間投資を必要としています。そのために、私たちは持続可能な利益を目的とした民間投資のための環境を整える必要があります。さらに、持続可能なビジネスモデルの開発がもう一つの重要な鍵であり、私たちは様々な要素の循環を維持する持続可能なビジネスモデルを持ったパートナーと協力していきたいと考えています。

今後の課題②：鍵となる要素

熱帯林の貢献という役割は、ITTO もプログラムとしておこなっている土地の回復に支えられる必要性を感じています。多くのプログラムは熱帯地域に焦点を当てているため、気候変動の問題にも対応する必要があります。これはグローバルなコミュニティーによって認識され、十分に支援されなくてはいけません。また、ガバナンスと執行も必要であり、合法的かつ持続可能なサプライチェーンに貢献する持続可能な森林管理には不可欠です。

多様なステークホルダーの関与とジェンダー平等ももちろん必要です。女性や少女には、意思決定プロセスに参画する権利があります。これにより、社会的、環境的、経済的な利益を保護し、SDGs を共有することが可能になると考えています。

さらに、コミュニケーションとアウトリーチを通じて持続可能な木材の伐採は森林破壊ではないという公共意識を高めていくことも必要です。合法的で持続可能な木材のサプライチェーンを活性化することは、同時に、世界の20億人

近くの人たちの生活に資することでしょう。

以上が、ITTO が国際組織として行っている活動の概観です。ITTO の WEB ページでは、合法的で持続可能なサプライチェーンが何かということについて、教育的な資料を紹介しており、すべて自由に閲覧することができます。政策文書や技術的な資料、毎年発行している報告書なども掲載しています。ソーシャルメディアのチャンネルもありますので、私たちが取り組んでいるテーマについて関心がありましたら、ぜひフォローしていただきたいと思います。

皆さまのほとんどの方々は、法学部、経済学部、文学部の三つの学部に所属していると伺っていますが、ITTO はこの三つの分野全てに取り組んでいます。私も弁護士で、森林関係の者ではありません。しかし、それは問題ではないのです。この分野に関して熱意があれば、活躍することができます。そして、この分野について学び続ける意志と忍耐力があれば、優れたキャリアという素晴らしい高みへと導かれ、専門家としても個人としても非常に満足できる使命を果たすことができるでしょう。

ご清聴大変にありがとうございました。

《質疑応答》

【質問】

貴重なご講演ありがとうございます。今回の講義を通して、ITTO から日本はどのように見えているのかということについて質問です。エジプトの COP27 で、日本は化石賞を取ってしまいました。全体的に SDGs という観点から見ても日本は遅れていると思いますが、どのように日本を捉えているのかを教えていただきたいです。

【回答】

ご質問ありがとうございます。ITTO は、COP27 でも積極的に活動しました。

日本政府も、COP27 で技術的な発展を進めることによって、気候変動の問題に対応するという形で、積極的に参加していました。代替燃料や水素の活用を進めるといった技術的な話もしておりました。多くの国が化石燃料の使用を減らすことに積極的ではありません。その意味で、日本は最善を尽くして、さまざまな技術を導入しようとしています。

ITTO に関しては、世界の最貧国でも活動していますので、代替燃料のコストについて検討しています。水素は素晴らしいですが、非常にコストがかかります。原子力も素晴らしいものですが、非常に危険でもあり、損害をもたらす可能性があります。原子力の安全が保たれれば、世界が脅かされることはないと思います。それと同時に、例えば石炭などを活用するということもありますが、世界中の何十億人という人々がこのような再生可能エネルギーやその他の代替燃料を活用することができない状況にあります。

日本政府は、その意味で、非常に良い指導的な立場にあると思います。代替燃料への転換という動きをさらに推進し、財務的なコミットメントにより他の国を支援して、より良いエネルギー源を使えるようにしていくべきだと思います。COP27 では、この損害あるいは損失に対しての基金というテーマも出ましたが、一部の当諸国のみに関係するものであり、未解決な問題となりました。気候変動の問題に対処するためには、毎年1000億ドルか必要であり、まだまだやることは残っています。

日本政府は、来年 G7 の主催国です。日本にとって、G7 の他の G6 の国々に対するリーダーシップを発揮するよい機会です。ITTO は日本政府やインドネシア、マレーシア、ブラジルなどの大きな熱帯の国々に、G20 と G7 でエネルギー問題を話し合うことを提案しました。

ご質問ありがとうございました。

【質問】

本日はご講演ありがとうございました。植林を中心に講演されていましたが、私が特に重要だと考えるのは、水資源についての問題です。近年、ヨーロッパ、例えばフランスで非常に飲み水が不足するという事態が起きていま

す。また木材と違って、飲み水などは一切、代替が不可能である物資であることから、飲料水をいかに管理していくか、それをどのくらい植物に回していくかということについて、ご意見を伺いたいと考えています。

【回答】

非常に興味深い質問をありがとうございます。ITTO は、水は地球上の生物にとって最も重要な要素の一つであると認識しています。先ほども申し上げたと思いますが、植林が全ての答えではありません。木は、水の保持を促します。そして、なぜフランスは飲料水が足りないのかという点については、いくつか理由があります。一つは、気候が変わっているということです。今年は、今までなかったような暑い夏がありました。ヨーロッパは、ここ3年間、そのような夏に直面しています。そして、先ほど申し上げたように、これはひょっとしたら地球の気候のサイクルのためかもしれませんし、人間に由来するものかもしれません。

フランスは、国として、たくさんの天然の森を失っています。そして、再び植林しようとしていません。その理由もいくつかありますが、フランスの土地利用で着目しているのが、農業の生産です。彼らは、フランス国民のためだけではなく、農業資源を海外に輸出するために生産しています。

さて、私は熱帯の世界出身であり ITTO の一員として、どうすればよりうまく水資源を管理できるのかを考えますが、これはいくつかの国にとって、特に今まで森林資源を大事にしていなかった国にとっては、長いプロセスになります。

なぜフランスが多くの木を失ったかの理由は、過去の戦争にあります。木材はよろいや武器を作るために使われました。その後、人々を食べさせるため、農業で収入を得るようになりました。一方、木材はフランスの旧植民地から得るようにしたため、木材資源を自国で作らなくてはならないという心配はありませんでした。

そして、水管理は、木と森林が非常に重要な役割を担っています。先ほど申しましたように、木を育てることによって、炭素を貯蔵することができます。

木は土壌をばらばらにすることなく、雨が降ったときには、土壌に水が保全されます。そうなりますと、地下水が自然の水に取って代わられます。そして、川もその土壌のおかげで存在します。木がなければ、あるいは植物がなければ、そして土壌を川沿いに保つことができなければ、川沿いの土地は崩壊してしまいます。崩壊しますと、堤防が崩れ、土壌が川に入ってしまいます。そして、川底が高まり、水はさらに海のほうへと流れてしまいます。

もちろん雨が降らないことも問題です。熱帯国、例えば雨があまり降らない私の国マレーシアでは、人工的にヘリコプターや航空機で雨雲を作り、雨を降らせています。人間は賢く、技術的な進歩があります。そうすることによって生計を立てることができます。

また、アフリカにおいては、飲み水に関して今、最も大きな脅威があります。貧しい地域は、今でも深い井戸に依存しています。その他の国連のパートナー機関とわれわれは、森林の維持だけではなく、非森林地帯においても協力をし、川の氾濫についても考えています。

それから、飲料水を作ったり排水を滅菌して再利用するということも、例えばアメリカ、イギリス、スコットランド、ウェールズで行われています。品質の良い水が不足してかなり汚染されているので、ろ過したあとさらに再ろ過していくことをしています。場合によっては、バクテリアのように人間にやさしいものを使用して、有害物質を除いています。日本は、その意味で、非常に幸運であり、そのような心配があまりないのです。もちろん暑い気候ではありますが、雨が一定量、降ります。ですので、世界においては国連のような機関が必要だと思います。

【質問】

今回の講演を聞いて、SDGs の持続可能な開発と環境保全に対しての疑問が生まれました。自然の生態系や資源のおかげで、私たちの暮らしている社会や生活が成り立っていると思います。つまり、この豊かな生態系を資源として使っており、例えば森林伐採などのおかげで経済が回っているという実情もあるのではないかと思います。

そこで、持続可能な開発と熱帯林保全や森林保全は、一緒に実現していくことが可能なのかどうかということを伺いたいと思います。

【回答】

ご質問いただき、ありがとうございます。持続可能な開発と森林資源の利用を両立させることは、熱帯諸国において可能です。これが持続可能な森林管理の基礎になっています。その規則や様々な指標に基づいて伐採をしています。十分に成長した樹木を単位面積当たりで伐採するという形で管理していますので、自然に育成され、再生されます。つまり、新しい種苗からまた伸びるということです。

また、熱帯国においては、苗を育成することで造林の拡張や植林活動も実施しています。例えば、気候パターンによって自然な木の育成が影響を受けるかもしれませんので、苗を使って生育を促進することができます。また、天然資源としてプランテーションを使い、さまざまな天然の森林のストレスを軽減することができます。

また、森林のプランテーションは、光合成や炭素の貯蔵も含めて行っていく必要がありますが、そのためには、土地が必要です。どの国も自由にプランテーションをつくるのではなく、さまざまな規則が必要です。もちろん一番重要なのが、真摯的な意志だと思っています。どのような国においても、ルールと規則に準拠する必要があります。マレーシア、ブラジル、インドネシアは、持続可能な森林管理を実行しています。これにより、天然の森林を維持することができます。持続可能な形で開発をしながら、森林を維持することは可能です。

例えばマレーシアの例を挙げますと、1992年のリオデジャネイロサミットにおいて、少なくとも50パーセントの天然の森林を維持すると約束しました。今は2022年ですが、マレーシアは56パーセントの天然森林を維持しています。そして、他の農業的なプランテーションであるゴムやパーム油、コーヒー、ココアなども含めますと、マレーシアにおける森林の面積は、72パーセントまで上がります。このような形で、国々は前に進んでいます。

【質問】

持続可能な開発に関心があります。プレゼンテーションをありがとうございました。特にラテンアメリカのビデオが気に入りました。

ラテンアメリカ、中南米に関して質問です。私はコロンビア出身ですが、残念ながら非常に汚職が多い国です。そのため、コロンビアでは、汚職のために持続可能な開発が阻まれてしまっています。どうすれば持続可能な開発を通して政治における汚職を止めることができるでしょうか。政治的にだけではなく、持続可能な開発を通して、汚職に歯止めをかけることはできますか。そうすることにより、持続可能な開発を作り出すことができますか。

【回答】

ITTO として、汚職に苦しんでいる国々に同情します。私たちの組織には36の加盟国がありますが、コロンビアはその一つです。コロンビアは素晴らしい加盟国ですし、林業関係者は素晴らしい方たちばかりです。汚職は、実際に権力を持っている政府にあるかと思います。そして、この汚職の問題の解決は、ITTO の加盟国であっても、ITTO の業務の範囲外です。

しかし、ITTO は、少なくとも日本も含めたドナー国が資金を提供しているプロジェクトに関しましては、協力している人たちやプロジェクトの協定が ITTO の反汚職なども含んだ複数のポリシーでカバーされるようにしています。

どうすれば汚職を解決できるのかについてのご質問にはお答えできません。その国の国民の問題だからです。国によっては、汚職のおかげで物事を前に進めることができると考える人もいるように、見方によります。他の国では、汚職とは非常に破壊的なものと見なされています。なぜならば、仕事の価値を破壊するからです。そして、進歩も阻みます。実際に現地の現実としては、ほとんど全ての国において汚職は存在します。ほとんど全ての社会においてです。日本は G7 の諸国ですが、日本でも汚職はあると思いますので、驚くことではありません。

しかし、汚職は、貧しい国においてより大きい問題であるため、重要です。

貧しい国で汚職が顕著なのは、十分な金銭的な資源がないからです。そして、このために、権力を持った官僚が汚職のわなにはまらないようにはできないからです。

若い人たちは将来、これを変えていけます。先ほど申しましたように、どのような仕事であっても、少なくとも私の世代でやろうとしていることは何らかの変化、すなわち人々の考え方や行動の仕方、そして地球を守るためにやっていることに変化を起こそうとするものですが、うまくいけば、将来の世代の役に立ちます。私の息子は、皆さまと同じくらいの世代です。皆さま次第です。皆さまが変化を引き起こしてください。

完全な解決法を汚職に関しては差し上げることができず、大変申し訳なく思います。痛みを伴う問題です。

【質問】

日本は森林大国といえるほど、森林が多い国だと思います。ITTO から見て、日本における森林の植樹の必要性や森林問題について、何かお話が聞けたらと思います。よろしくお願いします。

【回答】

私たちの活動は、熱帯国における植林に関するものですが、日本の植林や森林についてもよく知っています。日本は、第二次世界大戦で破壊された後に植林をした素晴らしい例です。特に丘や斜面など、荒廃した地域などにも植林しました。日本が今、直面している問題は、国土の60パーセントが既に植林をされているのですが、その多くが簡単に人が行けない所であるということです。それから、政治的なレベルにおいても、何ができるかということについて議論があるようです。

また、日本で植林された木の種は、日本人に大きなアレルギーを引き起こす杉の花粉であるという問題も分かっています。そこで、日本はこういった資源を活用するべきだと思っています。日本はその国土に植林をしていながら、多くの木材をロシアやインドネシアといった国から輸入しています。日本は

ITTO という組織をホストとして本拠に置くことによって、熱帯国における植林の問題、伐採の問題に貢献しようとしていますので、私たちもどのように進めることができるかというアイデアを出しています。植林された木は成熟しており、活用できると思います。

日本は今、木材の不足に悩んでいますが、それはロシアからの木材の輸入が止まっているからです。その一方で、植林が必要な状況によって、経済的な価値と環境的な価値も生まれると思っています。そういった意味で、日本は良い方向に進んでいると思いますが、植林したものに再投資をし、例えばお箸や床のパネルなど多様なものに木材を利用すれば、日本の木材を活用することができます。それによって雇用も創出できます。もちろん日本における製造コストは、人件費や間接費のために、高いという問題はあります。

もう一つの方法としては、植林された樹木を伐採して海外に輸出をし、そこで加工をすることです。例えば、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイなどの可能性があると思います。

【質問】

現在、私が所属している国際関係論のゼミの先生から、アマゾンの森林伐採について話を聞きました。国際的には、他国がブラジルのアマゾンの森林を破壊することは禁止されているとは思いますが、ブラジル国内で自国の領土の森林を伐採していくことが止まらない状態が続いているとのことでした。こうした問題に関しては、どのようにアプローチしていくのがアマゾンの森林を保全する重要なファクターになるのでしょうか。

【回答】

ゼミの先生のおっしゃるとおりで、いまだに森林の破壊がアマゾンで進んでいます。忘れてはならないのは、アマゾンはいくつかの国が共有しているということです。ペルー、エクアドルもアマゾンの森林の一部を持っていますが、最も大きな面積を所有するのはブラジルです。そのブラジルでなぜ森林伐採、森林破壊が増えているのかというのは、ボルソナロ元大統領の政治的な方向性

のためです。

ボルソナロ元大統領が権力を握る前のルラ大統領は、環境保全に関して素晴らしい仕事をしました。ブラジルは、ITTO の中で非常に活発で最も大きな熱帯国のメンバーでした。力があり、強く非常に賢い加盟国でした。しかし、ボルソナロ元大統領が権力を握ったときには、ブラジルの参加は大幅に減少しました。なぜなら、ブラジルの森林省が力を失ってしまったからです。そして、ブラジルは環境保全に関する変化を国際レベルで引き起こすことができなくなってしまいました。ブラジルの人々の判断は割れています。国の半分の人々は、ボルソナロ元大統領のやったことは正しかった、経済的な機会をブラジルのために開いたと思っています。しかし、環境的な資源は失われてしまいました。ブラジルの残りの半分の人たちは、ボルソナロ元大統領を全く支持していません。彼らは経済的な機会に感謝していますが、森林やアマゾンを破壊せずにできたのではないだろうかと考えています。

その後、ルラ元大統領が再選され、ブラジルは今年の ITTO の会議にまた参加してくれています。これは私たちにとっても関心の高く、勇気づけられる出来事でした。なぜなら、彼らはブラジルから実際に参加者を送り込んでくれたからです。これから1、2年の間にブラジルにおける政策は変わり、以前のものにまた戻るであろうと私たちは自信を持っています。ルラ大統領も再選されたすぐ後にもかかわらず、COP27 で非常に活発に活動し、いくつかの約束をしてくださいました。ITTO のような組織には、彼のような約束をする人が必要です。多くの ITTO 加盟国の人たちは、約束通り森林資源を守ってくれました。

しばらく待ってみてください。ある日、ゼミの先生もいいニュースを語ってくれるかもしれません。ブラジルにおける不法な森林伐採は、前ほどはひどくなくなっています。以前は20年もの間、非常に良い活動をしていましたが、ここ数年の間に状況が悪化してしまいました。それは、仕方がないことです。誰も何もできません。特定の国の政策に影響を及ぼすことはできません。しかし、それでも勇気づけられることだと思います。

【質問】

この環境と開発の第1回授業で、熱帯雨林の土壌は温帯の日本とは違って、雨が降らないせいで肥沃な層が大変少ないと聞きました。今日の講演で、合法的で持続可能な伐採は環境破壊ではないといわれていましたが、植林もするとのことでした。日本では、単一の植物を植えたがために、ナラ枯れ病などがはやったりしますが、熱帯雨林の植林で何か植林する種類について気をつけていることはありますか。

【回答】

一部の熱帯国においては、その土地にもともとなかった木をあえて植林するようにしています。別の熱帯国でうまく植林できた種を、試験的に植林しています。例えば、ゴム関係の木です。マレーシアではもともと原生林ではなかったのですが、ゴムの木をブラジルの森から持ってきて、マレーシアやインドネシアで植林しました。これは非常にうまくいきました。なぜうまくいったかというと、この熱帯域は一つの帯のようになっています。北極と南極がありますが、熱帯地域はその真ん中でいわゆる帯のようになっていますので、この地域に育つ木は、どの国であっても同じように育つわけです。

もちろんもともとその地にないユリオプスのような木を植えることがブラジルで行われていますが、一つの賭けだと思います。もともとその土地にない木を植えるときにはどうなるか分かりません。

その他、サブスピーシーズといわれる下位の種もあります。そのようなものを植えることによって、全く土壌に害を及ぼさない場合もあれば、害となってしまう場合もあります。木が育つけれども、それと同時に水資源や栄養分を土壌から過剰に吸い上げてしまうことがありますので、まずいったん試験を行い、その後に土壌の状況を修復する必要がある場合もあります。例えば、人工的に窒素や様々な要素を土壌に注入することによって以前の状態に戻すことをしています。これは自然ではないですけれども、そのような形で回復します。

原生林は、土壌の肥沃さを持続可能な形で管理することができれば維持されます。例えば、落ち葉や動物の排せつ物など天然の物が土壌を豊かにします。

そのような生物的な生態系があります。

質問のとおり、日本では単一の種を植林し、早く育ちました。杉は非常に早く育つ木ですので、それによって問題が解決すると考えたのだと思います。他のヨーロッパの諸国も同じような間違いを犯しました。もともとあったカシの木を切ってしまい、パイン木などの他の木を植えてしまったことで、かなり単一になってしまいました。フランスとドイツも同じような状況です。オランダにはもともと木はあまりなかったですし、ベルギーも同じような状況です。

単一の種では、病気のリスクがあります。何年も前ですが、アメリカ、ドイツ、フランス、カナダなど多くの国々で木が破壊されてしまう病気を経験しました。日本でも今、木の皮の病気やキクイムシに関して対処しようとしていますが、森林資源が重要なのであれば、この病気がほとんどの木を殺してしまう前に保護しなくてはなりません。そうしませんと、その年にまた健全な木の種を植林できるように、病気の木を切り倒し、資源を使ってしまわなくてはなりません。これは政府が決定するか関係する省庁が政府に対して対処法を提案するべきです。少しの痛みと資金、そしてかなりの労力が必要ですが、可能です。

皆さま、非常に関心を持っていただき、ありがとうございました。皆さまに明るい将来があるように願っています。そして、森林業は男性のみのものではなく、女性もぜひ入ってきていただきたいと思います。私は30年間関わってきましたが、非常にいい分野です。

どうもありがとうございました。